

いーえす

ESの樹



私たちは聞くことを大切にします。

ESの文字を左右対称に合わせることにより
対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い
聞くことを表現しています。

NPO 法人えんぱわめんと堺/ES
NO.43 2024年4月発行

もくじ

- | | |
|---------|---|
| P 2～6 | 【事業報告】人権NPO協働助成事業
『子どもとおとのエンパワメント事業』 |
| P 7～11 | 【事業報告】HR(Human Rights)プロジェクト |
| P 12～13 | 【事業報告】SAY(性・生)の会 |
| P 14～15 | 【事業報告】中区子育てひろば |
| P 16～17 | 子どもの権利条約関西ネットワークの活動から |
| P 18 | エンパワメンター研究会 vol12 |
| P 19 | 【研修報告】佐々木一さん・三澤恵子さん |
| P 20～21 | 『ESラジオ』始動 |
| P 22 | メンバーエッセイ |
| P 23 | CAP活動報告 |
| P 24 | 事務局からのお知らせ |



3月下旬のミモザの木
えんぱわめんと堺 事務所の近くで

【事業報告】

【民間公益活動を促進するための休眠預金等に関する資金の活用に関する法律】に基づく

人権NPO協働助成事業

『子どもとおとのエンパワメント事業』 報告 最終回



『子どもが誰ひとり取り残されることのない、一人ひとりが安心して過ごせる社会づくり・子どもの人権権利意識が定着する地域社会』
をビジョンに掲げ、3年にわたり取り組んだ人権NPO協働助成事業が終了しました。

日々の活動を通して、あらゆる子どもの居場所で、子どもの権利が尊重されていない現実があることを痛感し、子どもの権利条約の周知とエンパワメントの関わりをするエンパワメンターの育成をめざしました。このことで子どもの権利やエンパワメントの関わりを学び、子どもの権利尊重に意識を向けるおとなを増やし、またそのことで子ども自身も権利意識を持ち、自身の肯定的な力を存分に發揮できるようになると確信して事業に取り組んできました。

3年間を通して、実施しました

- ワークショップ開催 子ども向け：12回 292名 おとな向け：12回 159名
- エンパワメンター研究会開催 8回 80名
- 子ども支援者エンパワメンター講座開催 5回 67名
- アンケート実施 子ども 91名 おとな 702名
(アンケートの自由記述欄に空白は1枚もなかった！！)
- ガイドブック『エンパワメンターへの道しるべ』発刊・販売 361冊

その結果・・・変化を実感！！

- ☆子どもが自分も相手も大切にする関係を築くきっかけになった。自信を持って「NO」が言えた。
- ☆子どもが本音を言えた、気持ちが出せた。
- ☆おとの子どもの観が変化、肯定的な力を見つけ、見方が変わった。子どもの権利を尊重した関わりを意識。子どもの言動についての理解、決めつけないなど
- ☆支援者が子どもの声を聞くことで、子どもが安心して頼れる→安心感から信頼関係へ
- ☆支援者がエンパワメントの関わりを知り、一人ひとりを大切にする関わりや声かけを実践
- ☆支援者自身ががんばっている自分を認め大切に思える。

この助成金事業を通して、団体としての基盤強化にも結び付きました。

他団体とのつながりも持て、協力者も増えました。

子どももおとなも、お互いを理解し、認め合うことでエンパワメンターになれる！！

実際にエンパワメンターが増えました！！

助成金事業が終わっても、まだまだ続けていきます

- 子どもたちに「子どもの権利」を伝える…自分も相手も大切に思うことで相互尊重につながる
- 子どもの関連施設に子どもの権利をベースに子どもワークショップやおとなワークショップ/研修・講座を実施する…子どもの権利の理解が深まり波及・おとの意識変革
- エンパワメンターを増やす…子どもの権利尊重の意識が定着し、そのことが子ども自身の権利意識につながる

『えんぱわめんと堺だからこそ』の“エンパワメントの関わり”で “きのこのように、胞子をまき散らして、色々なところで発芽する”

人権教育、人権研修の必要性は誰しもがわかっていることで、今まで色々な取り組みがおこなわれている。それでも子どもへの人権侵害が起きている現実がある。

その土壌（子どもがいる場所）に「えんぱわめんと堺のエンパワメントのシャワー（子どもの認め方、受容、促し、間をおく、待つ、評価しない、見守る、目の前にいるありのままのその子を見る）をおこなうこと」で、栄養をいっぱい含む林床に変化できると考える。

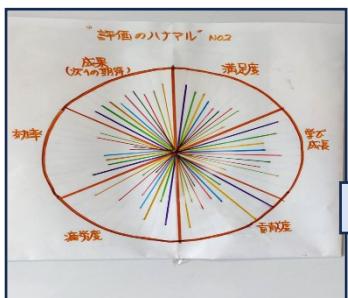
その林床でさらにエンパワメントのシャワーを浴び続けることで、子どもたちが成長・変化する環境が整う。色々な場所で子どもたちは過ごしている。子育てひろば、子ども食堂、学童、放課後児童デイ、スポーツ、習い事、塾など。子どもたちは、いろいろなおとの関わりで、学びを伸ばしていくことができる。

当団体の取り組みにより、子どもの権利を尊重するエンパワメンターが増えしていくことを期待する。エンパワメントの関わりをする人がきのこのように、エンパワメントの胞子をまき散らして、色々なところで発芽し、人ととの関わり、人と人がつながることでエンパワメントの関わりで育ち続ける（学び続ける）ことができる。潤した土に、風に乗ったり、雨に流されたり、人と人が交流して胞子を運ぶ、そしてまたその土を潤す。

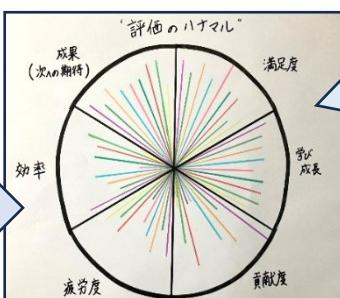
子どもたちが過ごす場所にはそれぞれの文化がある。その場所で、子どもが大切にされていない文化に対して、エンパワメンターは「あなたはどうしたい？」「あなたの考えを教えて」と声をかける。集団の圧力、決めつけ、無気力など見えない抑圧に対して、今後も当団体は人権視点で行動し、エンパワメントの文化に変えていく。



〈before〉



〈after〉



評価のハナマル before／after

3年間でメンバーの満足度・効率がアップしました！ そして疲労度は減！ 日頃の活動に加えての助成金事業はしんどかったけど、協力してがんばりました～！

集大成としてイベント「堺市に子ども条例を～」を開催しました

12月3日（日）講師に公益社団法人子ども情報研究センター理事の田中文子さんを迎えるました。そして、地元のパネリストとして、堺市で長年子どもの保育・教育に携わってこられた2名の先輩方に来て頂きました。富田久子さん、以倉育美さんです。お二人とも定年後、子育て支援に軸足を置き地域で活動されている方です。コーディネーターは当団体代表の北野が務め、堺市の児童が置かれている現状も伝えながら、豪華なメンバーで堺市の子ども条例制定に向けて考える会がスタートしました。

まず、田中さんは2023年に施行された「こども基本法」と「こども家庭庁」設置について、その背景の説明がありました。そして子どもの権利の父といわれている、ヤヌシュー・コルチャック氏の『子どもはだんだんと人間になるのではなく、すでに人間である』という言葉を紹介され、子どもの権利条約の精神とは何か？は、ていねいに議論し続けたいことだ、とありました。

その議論の中の一つ、印象に残ったものを紹介します。人間観の問い合わせで、子どもは、保護され、養育されると同時に、一人の権利行使の主体である。そして、広く子どもの「参加」として概念化されている中に、子どもの意見表明権がある。←この中に言語優先の価値観が含まれていないか？という問い合わせがあった。

感情 ⇄ 理性、受動性 ⇄ 能動性、弱さ ⇄ 強さ、依存 ⇄ 自立、どれも対立軸で考えられることが多いが、対立ではなく、人間はどちらも持ち合わせている。例えば、感情と理性では、理性の方が良い（優れている）というような価値観が無いだろうか？おとなに優位的価値が割り振られ、子どもの価値を下げているようなそういう考え方がある。広く社会にあるのでは？ということだったと思う。

子どもの意見表明権（=意見をきかれる権利）をおとながどう受け止めるかも突き付けられたを感じた。子どもの発達段階に合わせて、これは私の意見です！と表明してこなくても、泣いたり、怒ったり、黙ったり、そして態度で、絵で、文章で、ダンスであらゆる形態で子どもたちは自分自身の意見や考えを示していると、おとな側に受けとめる力量があるかどうか。そして、そんな風に子どもたちが想いを出せるような環境を作っているかどうか、を問われたんだと思いました。

テーマの堺市の子ども条例制定の件ですが、他の自治体で子ども条例を作る委員もされた田中さんですが、残念ながら政治と大きく関係しているため、こうすればできるというものではなく、その時的情勢次第というお話だった。その後、参加者とのセッションも含めて、子ども条例が出来ると何がいいのか、具体的に何が行われて、何が良くなるのか示すことが必要だという話になりました。人口規模の小さな自治体でも先行事例が沢山あることから、他所に学びつつ、子ども達も交えてしっかりと子どもの意見を聴く仕組みづくりの方策を考えていきたいと思いました。今回集って頂いた方を仲間に、堺市でも条例づくりの機運が上がるよう、しっかりと取り組んでいきたいと思います。

（あーみん）



子どもの意見を尊重する関わりができるひとをふやしていくことの必要性をあらためて感じました。
子ども権利条例が制定されるきっかけになればと思います。行政、NPO、議員みんなでネットワークを作りよりよい関係性が築けたらと思います。（参加者より）

資金分配団体として担当してくださった

大阪府人権協会の前村静香さんより寄稿いただきました

『特定非営利活動法人法人えんぱわめんと堺さんの温かさとパワフルさに魅せられて』

特定非営利活動法人えんぱわめんと堺のみなさんと私が出会ったのは、2021年春のことです。私は、一般財団法人大阪府人権協会が実施する人権NPO協働助成事業(※1)の担当者でした。ESさんは、この助成事業で実行団体として子どもに関わるおとなの方へ、養成講座を通してエンパワメントの関わりを伝えていくことに取り組まれることになりました。

この事業では、毎月の会議があり、事業の進捗度合いや内容の検討を協働で行い進めて行きます。初めての会議の日、緊張する私を知ってか知らずか、みなさん真剣なまなざしで私の話を聴いてくださいました。これは、法人の目的にある「私たちは聞くことを大切にします」を、日々実践することで自然に体現されたものだと感じたことを今も覚えています。このような出会いに始まり、3年が経過するまでにいろいろな出来事がありました。

1年め、日常のワークに加え「エンパワメンターへの道しるべ」を作り上げるために多くの時間を割くことになりました。そのようすを傍らから見ていると20年間を紙面に詰め込むことにワクワクしておられる姿と度重なる打合せの時間確保などにご苦労されている姿が見えました。私は、失礼ながら「多忙過ぎて大丈夫かな?」と感じていました。ですが、そのような時もみなさんから返ってくる言葉は「ワークでこどもたちに元気をもらっているから大丈夫!」でした。なんとパワフルなこと…と思いつつ、思えばみなさん会議で質問する時も、イベントで発表する時も、こどもたちの前に立つ時も、常にパワフル全開でした。ともに過ごしていると、私まで元気づけられた日々でした。

2年め、20周年総会&総会イベントにおいて「エンパワメンターへの道しるべ」がリリースされました。制作に携わった方々とそのプロセスについてトークセッションされた際には、会場内の多くの方がかもし出す温かい空気感のなか誰もが聴き入る姿がありました。その様子を見て、こんなに多くの方に大切に思われ応援や協力があり、取り組みを展開しておられるのだと感じ、そのような場に同席できることを嬉しく感じました。

3年めを迎えるタイミングでは、私にとって悩ましい出来事がありました。それはプロボノ(※2)への参加の提案です。日々、忙しくされていることを理解している私が、さらなる取り組みの提案をすることは、みなさんを苦しめてしまうのではないか…と。それでも、意を決して参加をお願いしたことには理由がありました。従前よりスケジュール管理の方法が、アナログによる膨大な作業量であること、その作業でミスを起こさないよう複数人が幾重にも確認することをお聞きしていました。それらを改善できれば業務の効率化につながるのではないかと感じたからです。みなさん悩みながらも参加を決意してくださいり、NEC株式会社さんとのプロボノが実現しました。約5ヶ月間、毎週1回、17時30分から開催される検討会は、団体さんのペースを尊重しながら、考えや思いが常に受容されるなか進みました。そのため、団体さんの意向に沿ったスケジュール管理システムの完成につながったと感じています。毎週、濃い会議に同席させてもらうことで、ESさんの一員になったような気持ちがして完成した時は、とても嬉しく

使われていくことを想像すると、少しの不安がありながらもワクワク感が不安な気持ちをかき消してくれました。

これらの取り組みを進めた3年間は、多くの意思決定が求められる期間でもあったと想像します。ESさんは、どんなに忙しい時も団体内のすべてのメンバーとの意思疎通を図り物事を決定されてきました。組織の運営にとって大切なポイントでありながら、疎かになる組織もあるのではないかと感じていた私にとって、やっぱり素晴らしい団体さんだと強く実感する瞬間でした。

3年間の時をともに過ごしているこちらに書き切れないことが、まだまだ沢山あります。実際のワークのようすを拝見した際、小さな声でつぶやく子どもの傍に駆け寄ったり、周りの子どもやおとなから叱責されたりすることも寄り添って声を聴いていたこと、これから取り組みたい新たな社会課題について熱く語ったこと、ひとつのパソコンの画面を覗いて作業に向き合ったこと、移動時に話したプライベートな悩みや話のこと、私の誕生日にオンラインでお祝いメッセージをくださったこと、その他にも、ひとつひとつを思い返しているとどの場面もみなさんの笑顔が思い出されます。

3年間、常に温かさとパワフルさを、まじまじと見せつけられた私は、ESismに魅せられた人のひとりであり、これからもESさんとつながり続けていきたいと感じています。

これからも団体メンバーの意思疎通をしっかり図りながら、子どももおとなも自分を大切にし、自分らしく安心して生きることができる地域社会づくりに寄与されることと思います。

前村静香

※1…被差別・社会的マイノリティを中心とする人権問題の解決に取り組む10の実行団体と協働で3年間、事業に取り組み社会課題の解決と実行団体の組織基盤の強化に取り組む事業。

※2…職業上のスキルや経験を生かして取り組む社会貢献活動

2023年9月プロボノ報告会資料より

プロボノへの不安と期待		エンパワメントとDX	
・プロボノって何?		DXって?	
不安	期待	DXって?	DX、是非みなさん、調べてみてください。宿題です
・日常、忙しい業務の中で、また難しい作業が増えたのではないか? ・IT化と言われても、私たち素人にできることがあるのか? ・そもそも、公的な教育現場などとのやりとりで、間違いの無いようにチェックを繰り返すコードネットは、かなり複雑なのに、できるのか?これまで培ってきた信頼関係を壊すことにならないか?	・事務局の作業の効率化を図りたいと長年思っていたので、事務局の負担軽減へ ・私たちも、ネットをもっと使えるようになりたい ・何度も確認して夜遅くまでやっていた作業をスムーズにできたら、私たちのエネルギーをもっと子どもたちへのワークショップに注ぎ、より良いワークショップができる	デジタル化すると言ふことではないですよ。 D=デジタル X=トランسفォーメーション デジタルテクノロジーを使用して、ビジネスプロセス・文化・顧客体験を新たに創造して、変わり続けるビジネスや市場の要求を満たすプロセスである（「イキベテア」より） アナログをデジタル化する…と言ふことではなく、これまでの、考え方行動を変えるってこと!	私たちが、これまで子どもに、そして社会に向けて発信をかけてきた、エンパワメントの概念、一人ひとりの力を取り戻す開拓力が、実際にこの場が、エンパワメントの場になった。
不安の解消～学びへの促進		これまで、アナログなやり方でやっていた事が、デジタル化できるのであるのか? 子どもワークショップを250クラス分を学校単位、クラス単位、また専門性も考慮して組み合わせる複雑な作業です。 できること、わかること共通言語	
		ちょっとお聞きして良いですか? こんなこと、聞いて良いのかわからりませんが… 聞く、伝える 待つ 相互理解	なんでも、質問すればません、もう一度、教えてもらって良いですか? 繰り返し確認 気づきから築き それが大事なんですよ。良いですね～気付いた事が大事です。

HR (Human Rights) プロジェクト

2006年度から18年間継続して「エンパワメント授業」に取り組んでいる北摂の小学校がある。毎年、1年生から6年生までクラス単位で、各学年の課題や要望について担任と打ち合わせをし、多様性教育や人間関係づくりなどの HR プログラムを届けている。

きっかけは2006年の文科省の助成金による「安心安全ワークショップ」のパイロット校になり、当時の管理職から依頼があったこと。学校では防犯について、えんぱわめんと堺では人権を視点に「安心安全」の取り組みをすること。「安心安全ワークショップ WEEK」と紹介され、3年間の助成金が終了後も毎年継続している。当時、全校で7クラスだったのが現在は 21 クラスに増えている。

さらに 2010 年度からは保護者や地域のおとな対象にも、子どもワークショップの目的の共有やプログラム体験、また、子どもの関わりについて共に考え学び合う講座を PTA 主催で毎年実施している。

わたしは毎年「エンパワメント授業」で子どもたちに会うのがとても楽しみでワクワクする。担任からも「子どもたちも楽しみにしていますよ～」と言われると、ますます嬉しくなる。

どの学年の教室にはいっても、「みんな覚えてる～？」ときくと、子どもたちから「目・耳・ハートは聞くあいづ」という声が返ってくる。廊下ですれ違っても、「あー、目・耳・ハートの人や～」と声をかけてくれる。子どもたちにとって、私たちは「目・耳・ハートの人」になっている。

「目・耳・ハートは聞くあいづ」 この合言葉は 1 年生から 6 年生までの共通言語になっている。

1 年生から、「聞くことの大切さを伝えてきた。「聞く」でもなく、「訊く」でもなく、相手の話に耳を傾けて「聞く」ことは、相手を大切にすることにつながるんだよと伝えてきた。(もちろん保護者対象の講座でも「聞くことの大切さを伝えている)

子どもたちは本当によく話を聞くことができる。授業のあと、先生たちがつないでくれているのも大きいと思う。毎年の継続の意味や成果がここに表れていると自負している。

「エンパワメント授業」は一人ひとりの力を引き出し、肯定的な力を見つけ、ともに認め合う場。違いを理解し、尊重することで、子どもたちは本音が言えたり、気持ちを素直に表現したりしている。

「良い聞き手は、良い話し手を育てる」と言われているように、子ども同士もお互いの意見や気持ちを「目・耳・ハートで聞き合える」からこそ、素直に意見が言えるのだと思う。子ども同士がお互いをエンパワメントしあい、本来持っている力を発揮できる場に長年関わっていることに、わたしはワクワク感がとまらない！！

By ありちゃん

当時私たちを招いてくださった方が今もコーディネーターとして学校にいらっしゃいます。毎回、終了後に各学年の写真を構成し送ってくださいます。毎年楽しみです！！





<1年生の感想>

- ★「目・耳・ハートは聞くあいづ」は一生わすれません。
- ★きょうのじゅぎょうは、いちばんたいせつなことだとおもったよ。しっかりいろんなことをまなべたし、とてもたのしかったよ。きもちをことばにしてあらわすのもおもしろかったよ。
- ★わたしはよくおにいちゃんとケンカをするので、ふうせんのプリントをいえにはっときます。ケンカをしないとおもます。よくかんがえて、やさしくするとおもいます。
- ★ひとをたいせつにすることを、たくさんみつけた。
- ★目耳ハートは聞くあいづをおしえてくれてありがとうございます。目でしゃべっている人をちゃんと見て、耳は人のはなしをちゃんときく、ハートは人のことをおもって、しづかに聞くことがわかりました。

<2年生の感想>

- ★わたしはこんなに気もちがあったんだなと思いました。びっくりやげきおこブンブンまるや、にっこり、いろんな気もちがあふれていきます。目耳ハートは聞くあいづ、いつまでもおぼえておきます！！
- ★ぼくは、ことばで気もちをつたえたりすることが、そんなに大切だとはじめてしました。ことばでつたえることを学びました。これからも人を大切にしようと思いました。
- ★目耳ハートは聞くあいづというのを思いだせてよかったです。あと、おこったらなぐったりするんじゃないなくて、ことばで言うことがすごく分かった。人のことを考えて言うのが大切だと分かった。
- ★なっとくのいくことわり方を学んで、ともだちがさそってきてことわる時は、つかってみようと思いました。そうじゃなかつたら、ケンカになるかもしれないから「だいじだな」と思いました。
- ★相手に今、自分が思っていることをつたえたら、自分も相手もうれしい気もちになることを知りました。いろんな気もちを考えて、これからも「目耳ハートは聞くあいづ」をおぼえておきます。
- ★たまに本当にイラつきすぎて、むしゃくしゃすることがあるけど、今日のじゅぎょうでイラッとしたときに人をきずつけないようにつたえたら、あい手もりかいしてくれることが分かった。

<3年生の感想>

- ★わたしは、おこった気持ちを心の中において、にっこりな顔でした。あと、くやしくても泣きたくないって思うこともあった。今回のじゅぎょうで、それは自分自身をきずつけたり、自分の気持ちをふみつぶしていたことが分かった。これからはおこった時はちょっといかりを出して、くやしいって思った時も泣いてみようかなと思った。
- ★いままでは、人の意見に合わせていたけど、これからは自分の意見を大切にしたいです。
- ★べつにおこりたい時はおこってもいいし、なきたい時はないともいいんだなと思いました。自分のことはこれから自分で考えます。
- ★人の気持ちのことをいっぱい学べた。なきたい時はないたらいいし、わらいたい時はわらったり、いやなことをされた時は「やめて」と言つたらいいんですね。
- ★自分の気もちは自分しか知らないから、自分の気もちをことばを使ってつたえることもできるし、はずかしかったら手伝ってもらつてもいいのかーと思った。「目耳ハートは聞くあいづ」わすれずに、ずっとその心をわすれません！みんなともなかよくして、すてきなクラスにしたいです！





<4年生の感想>

★わたしは言葉のきょうかい線もあると思います。なぜなら、言葉でからかわれたりするのも、こじん差があるからです。例えば、「この子好きなんですよ」「君の負けー」両方OKな人もいると思うけど、両方ダメな人もいます。OKな人も本当はちがうかもしれない。それが分かるような人になりたいです。きょうかい線の話は、もっとひろめていきたいです。

★自分が良くて相手はイヤな気持ちの時もあるし、ちゃんとイヤだったら自分の気持ちを言っていいんだ！って思いました。ちゃんと人と人の境界線をまもう！さえようと思いました。

★わたしは、きらわれたくないからがまんしていた時が何回かあったけど、この話をきいて、イヤなときはイヤと言って、理由も言えばなんとかできるんだと思いました。

★どんなに仲良しでも、親友でも、だれでも、イヤな時はちゃんと言おうと思えました。きく時も「めみみハートはきくあいす」を心がけたいです。

★自分がやってたことも少しあったから相手がいやだと言ったら、ちゃんとやめようと思いました。相手と自分の境界線をちゃんと守って相手と仲良くしようと思いました。

<5年生の感想>

★人はそれぞれ個性があり、人の考えはみんなちがう。みんな同じだと話し合ったりする時につまらないし、おもしろくない。人の意見が違うと新しい発見やいろんなことに共感できるから。みんなにわざわざ合わせたり、自分の意見と違うからといって批判するのはNG!共感すること、「目耳ハートは聴くあいす」で人の話に耳をかたむける！それを授業でも活用していきたいです。

★人の意見は「目耳ハートは聴く合図」で聴かなければいけないことを改めて感じました。この前までは、「ハート」がぬけていたけれど、「ハート」がぬけないように意識しようと思いました。

★「4つのコーナー」という勉強をして色々な発見がありました。1つは人の数だけちがう考え方がある事です。今までは人の意見を聞いても「ふーん、そうなんだ。わかってないな」としか思っていましたが、「あー！！そんな考え方があるんだ！」と受けとめる事が出来ました。おかげで人の意見を楽しむ事が出来そうです。

★1年生から5年生の時まで来てもらい、一番大切にしているものは、「目耳ハートは聴く合図」です。私のクラスでは「人の意見をちゃんと聴こう」という目標でがんばっていました。人の話をきちんと聴ける人になると、きっとすてきな人になれると思いました。

★とても楽しかった。みんなの意見を聞くことができた。自分の意見を大切にすることは大事だと思った。私も時々人に合わせてしまうことがあったので、これからは自分の意見を大切にしようと思った。みんな人それぞれ意見をもっていて、人それぞれなんだなーととても思いました。

★心が開けた感じがした。いろいろなことをして、みんなのことを知れた気がした。いちばん楽しい出前授業でした。

★一人ひとりの意見があるからこそ、じゅぎょうが楽しくなるということが分かった！色んな意見があるからこそ、じゅぎょうは成り立つ！！少数派も大切にしようと思った。これからは全部多数決で決めるんじゃなくて、時には話し合いなどで決めたほうがいい！っていうことを改めて感じた。みんなと話し合いができる、とても楽しかったです！！

★自分の意見をしっかり言えた。4つのコーナーのほかの人の意見をきけた。この学習をうけて成長したい。またもう1回やりたい。





<6年生の感想>

★知らず知らずのうちにうわさを信じて決めつけていることに気づきました。そのせいで人をきづけてしまうこともあると思いました。うわさは人の考え方やとらえ方によって変わってしまうからこわいなと思った。うわさだと思ったら、ほかの人に広めないでおきたいと思った。

★人によって受け取り方は十人十色であることを学ぶことができました。それはうわさともつながって、同じことでも人によって伝え方が変わっていくので、もし自分が人のうわさをきいた場合、本当にそうなのかどうかしっかりと確かめることを実行していこうと思います。また、人の受け取り方が自分と異なっていても、その人の個性として尊重していこうと思います。

★6年間いろいろなことを教えてもらってきたけど、「め・みみ・ハートは聴くあいす」は大切なキーワードだと思った。うわさを聞いたらそのうわさが真実なのか確認しようと思う。あと、人に接する時は「アサーティブ」で接するようにしたい。

★6年間授業をうけて、人との接し方がすごく身についた気がします。中学生になって、また友達がふえた時、6年間のことを思い出して、楽しくみんながいい思いをして生活できればいいなと思います。「め・みみ・ハートは聴くあいす」はいつでも、誰にでも使えることだから、大人になっても気をつけながら生活していきたいです！！

★私はあまり自分が好きではないけれど、自分を大切に自分の意見をやさしく言える「アサーティブ」になっていきたいと思います。「め・みみ・ハートは聴くあいす」これは大人になっても思い出せるぐらい覚えたので、おかげで人間関係がうまくいくそうです。

★今日の授業で私が学んだことは、『自分の意見を大切にすること』です。自分で考えたことを、自信を持って言うことが私は苦手でした。けど、今日の授業をうけて、これからは自分の意見を大切にし、自分の意見を自信を持って言えるようにならんばろうと思えました。「め・みみ・ハートは聴くあいす」をずっとおぼえて、心に残しておきます。

★ぼくは「これで最後なんだな～」と思いました。1年生から6年生まで、えんぱわめんと堺の授業は楽しかったです。「め・みみ・ハートは聴くあいす」おぼえておきます。

★私は1年生から6年生までの全6回の授業をうけて、とてもありがとうございます。私はこの「目・耳・ハートは聴くあいす」という魔法のような言葉を忘れないと思います。今日学んだことも、前に学んだことも忘れないと思いました。

★人によってものの感じ方やとらえ方は違っているので、だれかと話したりするときは、正確に自分の意図を伝えることができるよう話すということが大切だと分かりました。また、うその情報、うわさをきいたときは、本当のことかどうか信じていいのかどうかをしっかりと考えて確かめていくということが大切だと分かりました。

★人にものを伝える時は、自分に着ぐるみを着せてしまわずに、まっすぐな気持ちを伝えることで相手の理解や納得につながるのではないかなと思いました。でも、まっすぐすぎて、相手を傷つけてしまってはいけないので、言葉を発する前に、自分自身で言って良いことと悪いことを分別することが大事だということに気がつきました。うわさを聞いてもすぐに広げずに、自分でストップして、すべり止めをかけることで、本当の良い人になれるのだと思いました。

毎年、子どもたちの感想の一つひとつからたくさんのパワーをもらっています。

みんな本当にありがとう！！





教育関係 (学校・園など)	<p style="color: green;">—子ども対象(クラス単位)—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 豊中市立西丘小学校(1年生~6年生 全学年21クラス) 1年生3クラス 「聴く 気持ちを伝える」 2年生3クラス 「すてきな頼み方/納得のいく断り方」 3年生3クラス 「自分も相手も大切にするコミュニケーション」 4年生4クラス 「一人ひとりの境界線」 5年生4クラス 「自分で考えて行動する 4つのコーナー」 6年生4クラス 「うわさのしぐみ アサーティブに伝える」 ● 望之門保育園(年長児1クラス)「自分も相手も大切にするコミュニケーション」 ● 望之門学童クラブ3、4年生「自分も相手も大切にする境界線」 ● 大阪市立長吉小学校(3年生2クラス)「聴く力 自分も相手も大切にする境界線」 ● 大阪府立長吉高等学校 1年生 7クラス 1回目「感情と境界線」 2回目「多様性尊重」 ● 泉南市立鳴滝小学校 3年生1クラス「境界線」 4年生2クラス「上手な気持ちの伝え方」 5年生1クラス「納得のいく断り方」 6年生1クラス「境界線」 <p style="color: green;">—おとな対象(教職員・PTA・企業)—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 豊中市立西丘小学校PTA地区懇談会 「ボク、わたしにも権利があります」～子どもの本当の気持ちを聞いてみよう～ ● 望之門保育園教職員研修 「子どもの権利を尊重した関わり～子ども一人ひとりを大切にする関係づくり～
子育て支援関係	<ul style="list-style-type: none"> ● 堺市西区子育てサロンおたまじやくし 「乳幼児期に大切にしたい育み」～子どもが安心して生きるために～ ● 中区子育てフォーラム 「アンガーマネジメントを身近に」～ここちよい人との関わりのために～ ● 中区うきうきルーム子育て講座 「アンガーマネジメントを学ぼう！」～イライラさんと上手につき合う方法～ ● 尼崎こども食堂ネットワーク 「こどもとの関わり こんなとき、どうしてるん？」
行政・企業関係	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)セリオ学童保育支援者研修 「一人ひとりを大切にした関係づくり～子どもの気持ちを聴く～ ● 尼崎市児童ホーム・こどもクラブ責任者研修 「子ども理解と子どもの権利を学ぶ」～わたしたちの関わりを考え、見直すために～

2023年度 中区子育てフォーラム 「アンガーマネジメントを身近に」～ここちよい人との関わりのために～

昨年に引き続き、アンガーマネジメント講座の第2弾。地域の方の要望で、昨年度の発展バージョンを実施。子育て中の保護者、民生(児童)委員、こども園の教職員など約80名が参加した。今回は自分が怒りを感じた時に自分の気持ちや要望をどんなふうに伝えたらいいか?ティーンズポストの八巻香織さんの4つの自己表現を参考に、自分も相手も大切にするアサーティブな伝え方を考えた。

その日の体調、気分、状況、相手によっても違う。言えない時もある。それが悪いわけではない。言わないという選択もある。言わなかつたことも自分で引き受けれる。参加者のみなさんと自分ならこう伝えるとロールプレイをしながら、「むずかしいね～」「でもやってみよう！」ということを共有した。

毎回、講座の終了後の質問タイムでは行列ができる。パートナーや子どものこと、職場のこと、たくさんのイライラさんをここで吐き出す。「そんな気持ちになったんやね」と一人ひとりの気持ちを受けとめ、寄り添った。

By ありちゃん



SAY(性・生)の会

子ども対象		
就学前	西喜連保育所 5歳児	「大切なからだと気持ち」
	阪南市立下荘保育所 5歳児	「大切なからだと気持ち」
	なみはや福祉会大東保育園 4歳児5歳児	「大切なからだと気持ち」
小学校	四天王寺小学校 1~6年各学年	「からだとこころの健康教室」
	徳島県阿南市立大野小学校 小学生と保護者	「子どももおとなも自分らしく生きるためにたいせつなこと」
中学校	大阪狭山市立公民館 まなびーばsayama	「性・生のはなし 自分を大切に、その人らしく」
	認定NPO法人こどもの里 中学生	「自分のからだと気持ちを大切に」
	大阪府立豊中支援学校中等部 2年生	「性と生きるについて考える～人ととの境界線～」
	松原市立第四中学校 3年生	「おとなになる前のあなたへ♪ セクシュアルハラスメントについてからだとこころをたいせつに」
	大東市立大東中学校 1年生	「デートDV防止教室」
	大東市立諸福中学校 3年生	「デートDV防止教室」
	大東市立北条中学校 1~3年生	「デートDV防止教室」
	大東市立深野中学校 2年生	「デートDV防止教室」
高等学校	大東市立市四条中学校 2年生	「デートDV防止教室」
	大阪府立長吉高等学校 1年生	「性について、わたしのからだはわたしのもの」「デートDV」
	大阪府立大冠高等学校 2年生	「一人ひとりの心とからだを大切にする」
	大阪府立藤井寺高等学校 1年生	「性ってなに？生きるって？ 性と生の健康教育～思春期の性・生をともに考える～」
	大阪府立守口東高等学校 1年生	「思春期の性・生の健康教育～お互いを大切にするためにともに考える～」
	大阪府立高槻北高等学校 2年生	「自分も相手も大切にしあう性・生～デートDVから考える～」
	大阪府立八尾翠翔高等学校 1年生	「ライフスキルに基づいた性教育～デートDV予防プログラムより～」
	大阪府立汎愛高等学校 3学年	「自分のからだは自分のもの～性の健康教育～」
	大阪府立寝屋川支援学校高等部 1年生	「性と生きるについて考える～お互いを大切にするために～」「大切なからだと気持ち～プライバートゾーン・境界線について～」
	大阪府立農芸高等学校 2年生	「10代の性・生をともに考える」
おとな対象	大阪府立長野高等学校 2年生	「10代の性・生を考える～人ととのよりよい関係のために～」
	大阪暁光高等学校 1年生	「人権を視点に性・生を考えるワークショップ」
おとな対象	大阪府立守口支援学校高等部 3年生	「性・生の健康教育～一人ひとりの大からだと気持ち～」
	アトム共同福祉会	「子どもへの性の健康教育 性・生を人権の視点から考える」
	大阪府教育センター 教職員	「学校におけるセクシュアルハラスメント防止と対応」基礎編 「学校におけるセクシュアルハラスメント防止と対応」応用編
	大阪府立大塚高校 教職員	「子どものからだとこころを守る“性”とは～子どもの人権より～」
	大阪府立大正白稜高校 教職員	「性の多様性、捉え方について」
	認定NPO法人ノーベルおとな	「子どものからだとこころを守る“性”とは～子どもの人権より～」
	中区ひろば子育て講座	「自分のからだを大切に」
	西喜連保育所教職員 教職員	「子どもへの性の健康教育性・生を人権の視点から考える」
	松原市立第四中学校 教職員	「セクシュアルハラスメント防止」
	大阪府立堺工科高校 教職員	「セクシュアルハラスメント防止及び性的マイソリティについて」
	チャイルドラインとんだばやし	「思春期の性と生」「デートDV」
	社会福祉法人なみはや福祉会 教職員	「子どもの性と健康教育 性・生を人権の視点から考える」
	桃花塾処遇困難事例検討会 富田林子ども家庭センター	「障がいのある子どもへの性の健康教育 性・生を人権の視点から考える」
	西区放課後デイ連絡協議会	「障がいのある子どもへの性の健康教育～性・生を人権の視点から考える～」

左記にあるように、2023年度も就学前から高校生までの子ども、そして多くは教職員でしたが、子どもに関わるおとなへ性・生の学びを届けることができました。

特徴は、就学前、幼児期の性の健康教育のニーズが高まったことです。直接保育園などで子どもたちにプログラムを届けたことに加え、保育士や子どもの施設で働く職員の方への講座も増えています。背景には、子ども同士による性的トラブルや、子どもに関わるおとなからの性犯罪も大きいと思われます。（現在、DBSの仕組みが導入されようとしています）

子どもの性的トラブルは、被害に気づきにくいことや、子どもが被害の実態をうまく説明できないことも考えられ、未然に防ぐために性・生の学びが必要だとプログラム実施に繋がったと考えます。

SAYの会では、被害に遭わない為に予防的にからだのことや、被害に遭った時の行動を学ぶことは効果的だと考えていますが、それだけでは十分ではありません。包括的に発達に合わせ、自分自身のからだと心を大切にする人権の視点での性の学びが必要です。ネット環境に触れない幼児はほとんどいない今、年令・発達に合わない性的な情報に触れる機会も多いです。性を商品化した雑誌がコンビニで子どもの目に付くところにあったり、社会の環境にも問題があります。そのような流れだと、子どもたちが性をネガティブなものだと捉えるようにならないでしょうか？

文科省は生命の安全教育を勧めています。性被害に遭わないためのプログラムです。

幼児期から自分のからだは自分だけの大切なもの、頭やおなかや手や足、同じようにプライベートゾーン（くち・むね・せいき）の名前と働き、成長と共に自分のからだにどんな変化が起こるのか知る権利があります。どのように自分のからだを大切にすればいいのか話し合います。自分自身の五感で快・不快を感じ取れるような育みが必要です。性の自己決定、同意について、どの人とどの程度の性的な関りをもつのか、持たないのか、その際のメリットやリスク回避の方法を学ぶことは大事です。生涯自分のからだと付き合うのは自分で。自分のからだを好きになり、自分自身を大切にすることの中から、「NO」を言えるようになります。性の学びは自己肯定感を高めることに繋がることが、さまざまな報告で出されています。日本はまだまだ遅れていますが、ユネスコが提唱している国際セクシャリティ教育ガイダンスが指針となります。人権ベースに子どもたちの成長に欠かせない性教育を今後も広めていきたいと思います。



（あーみん）

DBSとは (Disclosure and Barring Service)

子どもに接する仕事に就く人に性犯罪歴がないことの証明を求める仕組みで、すでにイギリスで導入されています。教育・保育現場は2022年に児童福祉法が改正され、子どもへのわいせつ行為などで免許を取り消された場合、再登録ができないよう取り締まられています。しかし、その他の子ども職、部活・塾・学童・スポーツクラブ・放課後デイなどは法律の範囲ではありません。

日本版への関心が高まったのは3年前、保育士のマッチングアプリを利用していたベビーシッターの男女2人が保育中の子どもの体を触り、逮捕された事件でした。2人は性犯罪を繰り返していました。性犯罪歴のある人が子どもと接する職業に就くことを制限するほかにも、事業者に性被害から子どもを守るために安全確保措置を考えもらうことにより、抑止力を底上げしたいと政府は考えています。

堺市 中区子育てひろば

ひろばスタッフ研修報告

2024年1月20日（土）子育てひろばの運営9年目を目前に、待望の栗本敦子さん〈えふらぼ〉をお迎えして「アサーティブ」をテーマにスタッフ研修を行いました。

ひろばに来られる利用者さんとの関わりや、長い時間を同じ場で共有するスタッフの関係を、更により関係性へと築いていけるようにとスタッフ要望のテーマで参加型の研修を実施しました。

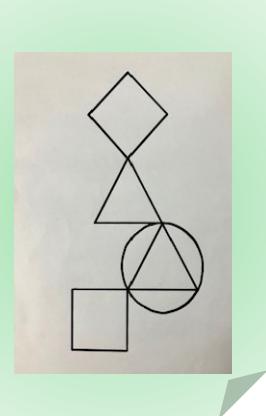
このアサーティブの研修でまず印象的だったポイントは「自分の気持ちを過不足なく伝える」でした。そして、「相手がどのように受け取ったかどうか、本人の気持ちは本人でないとわからない」とお話をいただいたことも心に残っています。このことが、講座中の2つのアクティビティを通して楽しく実感できたので紹介したいと思います。

ひとつめは・・・三人グループになり、一人が出題者、あとの二人の回答者が協力し、ひとつの図形を完成させる活動でした。出題者は、講師が用意した絵を見せてもらいます。出題者のみ分かっている図形を、回答者が 全く同じように描けるように言葉だけで説明する図形伝達ワークです。「ひし形の下に三角、角と角をつけてください！」と、自分では的確に伝えているつもりでも回答者は出題者の思うようには描く事は困難でした。うまく伝わっておらず、出題者、回答者の満足度や各グループで描かれた図形のならびについての満足度の数値にも開きがありました。

伝達の難しさと捉え方の多様さに気づきました。過不足なく端的にわかりやすく伝える難しさと、さらにアサーティブの4つの柱である誠実（うそをつかない）、率直（回りくどい言い方をしない）、対等（立場でなく人として対等）、自己責任（言ったこと言わなかったことに責任を負う）をふまえてどのような言葉が自分の思いとして伝わるのかと考えたワークショップでした。

もう一つは「ペーパープレゼント」というグループ体制になってのコミュニケーションワークショップです。6名のグループで各自に色々な形の型紙が数枚ずつ割り当てられます。ルールは、①しゃべらない②自分の型紙を他人に渡すことはできるが、他人の型紙を取ったり、欲しいと要求は出せない。③同じグループの人が型紙の組み合わせで全員同じ正方形ができた時点でゴール。

いざ活動中、自分の手持ちの型紙はバラバラで正方形は作れず、「あなたの持っているその型紙が欲しい！」が言えない。自分は必要でないが、他のメンバーには必要だと思ったので「どうぞ」と型紙を手渡す。「どうぞ」と手渡された型紙がいらないものだった時、とまどいを隠せない。早くに正方形が出来上がり皆のゴールを待っていたが、全員が正方形を完成させるには、せっかく出来た自分の正方形を崩さなければならないのか・・・。



どう伝えますか？



色々な思いが交錯する中、つい声や手が出てしまい講師の栗本さんから「しゃべらない！」「手を出さない！」

「拒否しない！」「全員出来上がるのがゴール！」と何度も注意を受けながら（笑）、ようやく全員完成できました。

自分のことだけでなく、メンバーの型紙や全体の様子や状況を観察する、さまざまな視点から方法を探っていく

事、勇気を出して一度全てを崩し違う方法を試してみることで、全員のゴールにつながるなどの気づきがありました。

振り返ることで自分の心の動きが見え、自分の傾向を知ることができました。

また、メンバーそれぞれが感じていることや気づきのタイミングの違いなども、聞いてみるとわからないと実感したことを忘れず、これからもアサーティブなコミュニケーションを重ねてよりよい関係づくりに活かしていきたいと思います。

（F. K. O）

ひろば活動報告

2020年3月からコロナ禍の影響により閉室や少人数の予約定員制などが続いていましたが、2023年5月に5類になった事で予約、定員の制限はなく自由に利用していただけるようになりました。好きな時間に利用できたり滞在時間が増えてゆっくり遊べると喜ぶ人がいる反面、制限が解除されても一步踏み出せない利用者もいましたが、現在はコロナ禍前と同じように沢山の人が来室してくれるようになり、賑やかになっています。2023年度は父子の利用が多く、育休中の方も複数人いて、父の育児参加が増えている事を感じました。母子で来ていた方達が家で父子で来ている事をお話しされ、父子で初めてのお出かけするチャレンジの場にしてくださいの方もいて、ひろばが誰にでも来室しやすい場所になっている事を嬉しく思います。壁一面の大きな窓には季節ごとに画用紙など色々な素材で制作した窓飾りをしています。近づいてじッと見たり、触って紙などの感触を手で感じたり、日差しが入ると床にうつる形や色を指さし親子で楽しむ姿があり、オモチャが無くとも、子どもたちは自身の五感を使って過ごしている時間に子どもの力の育みを感じています。ひろばを開室して9年目になり、以前に来室されていた方が久しぶりに下のお子さんと来室されて再会を喜び合ったり、しんどい時にふとひろばを思いだしてお話しをしに来てくれる方もいて、続けてきた事の良さを実感しています。今年度も「ひとりじゃないよ」のメッセージを大切にし、利用者さんの気持ちに寄り添えるよう心掛け、スタッフ同士で協力したり学びながら、ホッとできるひろばになるよう努力していきます。

（F. J. M. O）



子どもの権利条約全国フォーラム2023 inとよた 参加

今年度も、子どもの権利条約関西ネットワークの子ども会議チームから、子ども12名、おとな7名で11月25、26日と愛知県豊田市のフォーラムへ参加してきました！

昨年の沖縄から新しいメンバーも4名増え、小学生から高校生までの多様な子どもたちが子どもの権利条約を学び、共感し、広めたいと揃ってくれました。恒例ですが、遊ぶ時間・おやつタイムの確保、何にどの程度参加するかは子どもたち自身が決めます。それでも、全体会の舞台挨拶、全国の仲間との座談会への参加、分科会の担当、埋まらない枠はありません。



全体会、分科会、両日共に1000名を超える参加者でした。豊田の20の市民団体が実行委員会を結成し、運営にあたられたとても温かな会でした。実行委員会に多くの子ども達も参画しており、大阪から参加した子どもたちも「子どものけんり なんでやねん！すごろく」の分科会を、生き生きと進めてくれました。参加者のなんでやねん！を紹介します。

なんで泣いたら あんかんねん。	先生なのに守れて いない。	先生だけが 許される。	廊下を走るなど 注意した先生が 走っていた。	音楽の授業でひとり ずつ前に出て歌わせ まれて歌が嫌いに なった。
授業で課題が終 わったあと、好きな ことをしてはいけない のはなんでやねん 聞いてくる。	自分の環境を隠し てのいるのに友達の いるところ、家のことを 下さるから「成績が 下がる」と言われ、 実際に下がった。	授業で彫刻刀を使 い、少し怪我をした から先生から「成績が 下がる」と言われ、 実際に下がった。	同じことをしても おとなはいいのに子 どもはあかんことがあ る。	遊びを途中で止め られること怒ら れない子がいる。
けんただけ握手をし てくれない。	家でも学校でも、 友だちにもうるさい といわれる。	コロナで自由に外に 出られない。 コロナで友達に会え ない。	心配してふりして上から話してく る。	おとなはいいのに子 どもはあかんことがあ る。
おとなはこぼしても 怒られないけれど、 こどもが飲み物など 街を歩いていたのに こぼしたら怒られる。 人から避けられた。	美容室で金髪にし てもらい気に入ってる 街を歩いていたのに こぼしたら怒られる。 人から避けられた。	化粧の練習をしてい たら不良と言われた。 めたらお小遣い はいらないねと 親に言われた。	アルバイトをはじ めたらお小遣い はいらないねと 親に言われた。	どこかに行くときに 「早く準備して!」って 言われるけど、親の 方が準備が遅い。
なんでやねん！	ウチはウチ、ヨソはヨ ソと言うくせに成績 などは比較する。	おとなは夜にお菓子 食べるのに子どもは あかんのなんでやね ん。	どうしてこの世に お金があるの。	鼻くそほっていたら、 おこられた。 わたしは母ちゃんに 話を聞いてもらう権 利がある！だから 今は話を聞いて！

なんでやねん！すごろくを通して権利を知ると、いいっぱい言いたいことが出てくるよね。だって普段は子どもの権利も知らされず、パワーレスになっている子どもの多いこと。

今回のオープニングでは、こども家庭庁の長官から、31回続いている全国フォーラムの重要性と、子どもの権利条約に則り、こどもまんなか社会を実現していくという直接のメッセージがありました。次に、国連子どもの権利委員会の大谷美紀子さん(弁護士)の基調講演があり、「日本では、権利と義務はセットだという反応が良くあるが、権利は子どもにあり、義務は大人にある。大人も子どもも同じ価値のある人間だという人権の基本に立ち返り考えて欲しい」とありました。

その後、大谷さんと全国各地の子ども達による座談会が行われました。その時の様子が 2023 年 12 月 29 日の朝日新聞に取り上げられましたので、一部子どもたちからのメッセージを紹介します。(関西ネットワークの子どもたちも発言しました)

「権利を知ると自由になる」「私は嫌な事があったら、嫌と言っていいと知っているけれど、学校では言いません。先生を含めて、みんな知らないからです」社会には、権利を教えると子どもがわがままになるという大人の意見があることに応答して「権利を教えた上で、どこからがわがままか、いけないことなのかを教えられる先生がいればいいのに」「子どもの権利を知ると、自分たちは守られているのだと安心できる。だから教えて欲しい」との意見も出了しました。毎回出る話題ですが、校則に対しての疑問も多く、靴下の色を指定する意味が分からなかったので、先生に質問したが明確な答えが返ってこなかった話や、シャーペンが禁止されている理由が全く分からないなど、全国共通の疑問も出されていました。

これらの話を会場の全ての人が真剣に聞き入っていました。これらのメッセージと、子ども達からのなんでやねん！ みなさんはどう受け止めますか？



分科会をみんなで担当！たくさんの人気がきてくれました



クロージングにて
「学校でもらった子どもの権利条約のプリントを、先生が処分していいと言っていた、なんでやねん！」「自分は 7 年前から大阪で活動をしているが、なんでやねん! すぐろくをすると子どもの権利条約を知らない人がいっぱいいるので、どうしたらみんなに知つてもらえるか考えたい」

堺市でも子どもの声が聴かれる場、子ども参画を保証する場をつくりたい。

(あーみん)

エンパワメンター研究会 vol. 12

子どもとの関りにエンパワメントのシャワーを！

「子どものウソ」「子どものやる気」「子どもの反抗期」とどう関わる？

子どもとの向き合い方を難しいと感じていませんか？

子どもたちが育ち・学ぶ土壌にエンパワメントのシャワーを注ぐことで子どもたちの力がふくらみます。

関わり方をともに学び合い、あなたもエンパワメンターになりませんか。

1

5／25（土） 堺市産業振興センター セミナー室3

「子どものサインに気づく」子どもの権利より



2

6／4（火） 堺市総合福祉社会館 第1会議室

「子どもとわたしのバウンダリー（境界線）」対話より

3

6／20（木） 堺市総合福祉社会館 第4会議室

「エンパワメントのシャワーを浴びる」地域の安心へ



4

8／17（土） 堺市産業振興センター セミナー室1

「あなたもエンパワメンター」

講師 Facilitator's LABO <えふらぼ> 粟本敦子さん

全日程 13:30~16:00

参加費（1回につき）

一般3000円（学生2000円）・賛助会員2000円・正会員1000円

【研修報告】

内閣府地域における男女共同参画を支援するためのアドバイザー派遣事業

『暴力（DV）をなくすために』

～加害者更生教育プログラムより～

DV加害者更生教育プログラム全国ネットワーク（PREP-Japan）
のびぽこNo-vipoco主宰・ファシリテーター 佐々木一さん・三澤恵子さん

加害者更生教育プログラムは被害者を守るために、治療ではなく価値観の変容を促すためのものであると学びました。

またプログラムに参加するためには、「被害者が希望していること」が条件にあると知り、被害者にも安心をもたらすのだと知りました。

日々、子どもたちに向き合うわたしたちは、DVが起きる背景にジェンダーバイアスが影響していることを改めて認識し、ワークショップに活かしたいと感じます。

〈参加者の感想より〉

○「生まれながらのDV加害者はこの世に存在しない」ということを心にとめて、子どもたちにジェンダーの話をていきたい。

○DVを受けたと聞けば別れる離れることを1番に思っていましたが、それができない人や迷っていて言えない人もいるので、やはりまずは気持ちを聞くことの大切さに戻りました。

また被害者主導のプログラムのスタートと卒業に安心を感じたのと、DVの加害者はなかなか変化がないと思っていましたが、本日のお話をきけて可能性を感じ、もっと広がれば、社会も変化していくと思いました。

○デートDV予防講座を小学校、中学校でしています。

中学生にアンケートをとると「暴力は被害者にも問題や原因がある」と答える子達が年々増えています、男子は特に増えています。ジェンダーの問題がとても大きいと今日また改めて思いました。

○DV被害者のための加害者更生プログラムをしていらっしゃる、ささいちさん・まるみさんのお話は具体的で分かりやすかったです。被害者と会うことが多いのですが、「あなたはどうしたいの？」と聞いても「まだどうしたらいいのか決められない」という方が多いのも事実です。その方がゆっくり考えられるように信じて寄り添うことも大切なことだと思います。

○被害者支援・加害者更生を両輪でサポートしていくことが必要なことが理解できた。

○離婚率が低いことを知りました。精神的暴力が多いこと、でもなかなか認められないというところが近々の課題かと思いました。



新たに『E Sラジオ』始動します

近年、スマホやコンピューターのユーザーが世代を問わず、端末を使ってワンクリックで「無料」の音楽や動画を楽しめる時代になっています。「無料」とは言っても視聴途中で広告が入ってきたりと様々なトリックはあります。それでも隙間時間や移動時間に「いつでも」「どこでも」「誰とでも」を自由に自分で選べるようになったことはメディアへのアクセスの革命的な変化だと感じています。

冒頭のタイトルの話題になりますが、『E Sラジオ』始動します。

皆さまは「ラジオ」と聞くとどのようなイメージがありますか？

車を運転する人であれば、「カーラジオ」を想像する人もいますでしょうか。私はもしも誰から「必要不可欠とは感じないけど欲しいものは何？」と聞かれたら、ラジオを聴くためだけに作られたラジオ機器と答えます。ラジオ全体がノスタルジックな雰囲気をまとっている感じが好きで私の欲しいものの一つです。でも今はまだラジオ機器を持っていません。「自宅のラジオが壊れたから電気屋さんでラジオ機器を買いに行こう」そのような言葉は、もう多くは耳にしないでしょう。その背景には、インターネット通信が可能な環境であれば、手元の端末からワンクリックで音声メディアの視聴ができるようになったことが大きく影響しています。

「Podcast（ポッドキャスト）」や「Spotify（spotify）」と呼ばれる音声配信サービス（音声メディア）をご存知でしょうか。

スマホやコンピューターから無料でダウンロードすることで世界各国のさまざまな音声配信のチャンネルへアクセスし視聴することができるサービスです。

今回、この音声配信サービスを使って、えんぱわめんと堺の声を発信します。

『E Sラジオ』始動します。

『E Sラジオ』では、えんぱわめんと堺のこれまで培ってきたこと、思い出深いエピソードなどを各回のテーマごとに配信していきます。

聴いていると安心するようなそんなラジオを目指します。

E Sの理念を土台にさまざまなテーマで繰り広げるフリートーク。

話がテーマから脱線してもそれもまたおもしろいと楽しんで聴いていただけます。

聞き逃しても大丈夫。生放送ではありません。検索すればいつでも再生可能です。出かける準備をしながら、移動中にイヤホンで、ゆっくり自宅でお茶を飲みながら、仕事のBGM代わりに、寝る前の静かな時間になどなど自由にお楽しみいただけます。

『ESラジオ』へのアクセス方法(検索ワード)など詳しい内容は、ホームページやFacebook、次号の「ESの樹」に掲載いたします。
是非とも第一回目のラジオ番組の配信をお楽しみにご期待くださいませ♪

(あいのっち)



『言わなかつた「ランドセル」のこと』

2023年度もたくさんの子どもたちと出会い、時間をともにした。初めて会う私たちを受け入れワークショップを楽しみながら参加してくれる子たち、様子を伺いながら徐々に参加する子たちや、会った時から気になるなど感じる子、試してくる子、様々な反応の子どもたちとともに進めるワークショップは、全くとして同じものはない。そしてすべてに意味があると思うと、とても貴重である。ただ一期一会の私たちに見せてくれる姿はすべてではないであろうことも、承知の上である。だからこそ子どもが、新しい自分を披露してくれる場となることもある。そんな子どもたちの背景や状況を考えていると、なんとなく自分の子ども時代を思い出す。

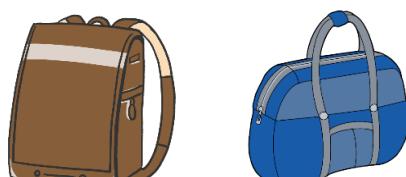
私は小さい頃、天神祭りに合わせて三重県から祖母の家に遊びに来ては、夏休みのほとんどを過ごしていた。それ故に近所の子どもたちとも顔なじみになり、暗くなるまでよく遊んだ。小学校3年の夏休み終わり、2学期のスタートはそのまま近所の小学校でとなった。転入の日は、近所の子たちと一緒に学校に行き、なんとなく自然な流れだったように記憶している。ただ、学習机も、集めていた水森亜土さんのメモ帳も、大阪万博で買った月の石が入っているらしい置物も、私の元には届かなかった。「ランドセル」も。前の学校では、友だちと登下校時、「ランドセル」をおんぶしている赤ちゃんにみたてて、お母さんごっこをよくしていた。通学のための新しいかばんを買ってもらったが、本当は「ランドセル」がよかった。でも、おとなたちには何も言わなかつた、かばんのことも、友だちにサヨナラも言えてないこと、急な環境の変化の中感じていたことについても。クラスにはもう一人、「ランドセル」ではない子がいて、その子はなんとなく大人っぽく、かっこよく手提げかばんを持っていて、私は少し憧れた。だから、とりあえず私も「ランドセル」でなくてもいいことにした。

それから40数年過ぎた時その友だちに、転入後仲良くしてもらったこと、そして「ランドセル」がなくても彼女のおかげでやり過ごせて、感謝していると伝えた。彼女は笑いながら、「私もランドセル欲しかったんよ。」と。給食で残したパンを入れたままにしていたら、ネズミに「ランドセル」をかじられて大きな穴があいた、母と二人の生活で、もう一度買ってもらうことも無理だったので、我慢していたと、漫画のような本当の話をした。二人とも誰にも話してこなかつた。おとなになった（相当いい歳の～笑）私たちは、お互い顔を見合させて笑ってしまった。

子どもが誰にも言わず抱えていること、それが、おとなになって笑える話であればいいが、そうとは限らない。「迷惑かけたくない」「心配かけたくない」から一人で我慢するという子は少なくない。「もういいねん…」「仕方ないから」と言わないことが多い。そんな中でも、ワークショップを受けたことで私たちに話してくれる子どもの力とその気もちを、しっかり受け止め全力で聴く。あきらめずに、少しでもいい方向に向くように一緒に考えようと促す、さらに傷つくことがないようにと願いながら。子どものころ、もし今の自分にCAPワークショップで出会っていたら思っていることを話すだろうか。どんなおとなになら話してみようと思うのだろうか。どう聞いてほしいだろう。9歳のころの自分を思い出しながら、自分に問いかけている。

2024年度もまた始まる。子どもの声なき声に耳を傾け、気もちを聴こう。そして子どもの安心・自信・自由のけんりを守ることができるように。

(ほりちゃん)



CAPの活動報告

	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数		
5月	0	0	0	1	2	43	0	0	0	2 (1)	25 (3)
7月	0	0	0	1	1	20	0	0	0	1 (1)	5 (5)
9月	3	4	98	0	0	0	0	0	0	3 (3)	7 (7)
10月	19	41	1153	0	0	0	0	0	0	19 (19)	60 (60)
11月	23	52	1449	0	0	0	2	6	208	25 (25)	95 (95)
12月	24	61	1745	2	3	55	2	7	233	28 (28)	113 (113)
1月	8	16	389	1	1	30	2	13	428	11 (11)	67 (67)
2月	12	38	1074	1	1	29	3	11	326	16 (16)	88 (88)
3月	4	12	334	1	1	13	1	3	95	6 (6)	28 (28)
合計	92	224	6242	7	9	190	10	40	1290	111 (110)	488 (466)



ローズカーニバル フリーマーケット拠出品のお願い

5月19日（日）堺市西区の浜寺公園においてローズカーニバルが開催されます。
えんぱわめんと堺はフリーマーケットに参加し、今回も売上金を障がいのある子ども達へのワークショップ費用などに活用します。

タオルや食器類などなど、フリーマーケットへの品物の提供にご協力をお願いします！！

えんぱわめんと堺事務所にお送りいただきか、事務所までお問合せください。



『第22回 総会&総会イベントのお知らせ』

☆日時：2024年5月18日（土）

　　総会 11:30～12:30　　総会イベント 14:00～16:30

☆場所：堺市産業振興センター　　会議室3

総会イベント 『DXとエンパワメント』

講師：NECソリューションイノベータ株式会社 AI・アナリティクス事業部

　　藤田 英利さん

3年間の人権NPO協働助成事業の取組みを報告の後、プロボノ活動を通してえんぱわめんと堺のDX化にお力添え頂いたNECの藤田さんに、「DXのイメージって？機械や技術だけでなく、人との関りの中でのDX」について交流しながら、お話をいただきます。

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

（初年度のみ入会金3,000円）

賛助会員 1,000円（入会金なし）

更新日は年2回（1月31日・8月31日）です。

- ◎ 会員有効期間は1年です。
- ◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんぱわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

正会員 28名

賛助会員 55名（75口）

寄附金 67,000円

（2023年4月～2024年3月）

2024年3月末現在

ESの活動はみなさまからの寄付、
ご支援にささえられております。
今後ともよろしくお願ひいたします。

特定非営利活動法人えんぱわめんと堺／ES

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp <https://www.npo-es.org/>

ホームページやFacebookも見てね



編集後記

わたしが暮らす区で2023年に出生した新生児は800人だと知った。身近な数で少子化を実感。

しばらくして、幼い頃から同じ地域で育った自分の子どもの友だち数人と会う機会があった。

20代後半の彼らもついこの前まで小学生だった感覚だけど、「おばちゃん～元気ですか?」「東京に転勤することになった」「ぼく、結婚してん」と話してくれるのが嬉しくてたまらなかった。

こども大綱では『20,30代の若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会』が謳われている。まだまだ支えられて育つ世代、みんなが幸せでありますようにと願った。

彼らが親になったとき、安心して子育てできるようにまだわたしに出来ることがある。そしてその子どもたちにCAPが届けられるよう元気でいよう！と思った。（しおざき）



イラスト提供：ふわふわ。り